

第2次都立動物園マスタープラン 推進計画【概要版】

1-1. 推進計画（各園基本方針・飼育展示計画・教育普及計画）について

【推進計画策定の考え方】

● 第2次都立動物園マスタープラン（令和2年11月策定、計画期間:令和3～12年度）

◆ 策定にあたり、以下の2つの基本的考え方を踏まえる

「動物園・水族館の持つ4つの機能（レクリエーション、教育・環境教育、種の保存、調査・研究）を強化」

「持続可能な開発目標(SDGs : Sustainable Development Goals)の達成に寄与」

◆ 都立動物園の目指す姿の達成に向け、各園の「目指す姿」と「取組の方向」を規定

● 推進計画の策定

◆ 各園の「目指す姿」と「取組の方向」の内容を踏まえ、第2次都立動物園マスタープランの下位計画として、各園の取組の方向性や、具体的な内容を取りまとめた各園基本方針・飼育展示計画・教育普及計画からなる園ごとの推進計画を策定

◆ 各園の特色に沿った、具体的な取組を進める

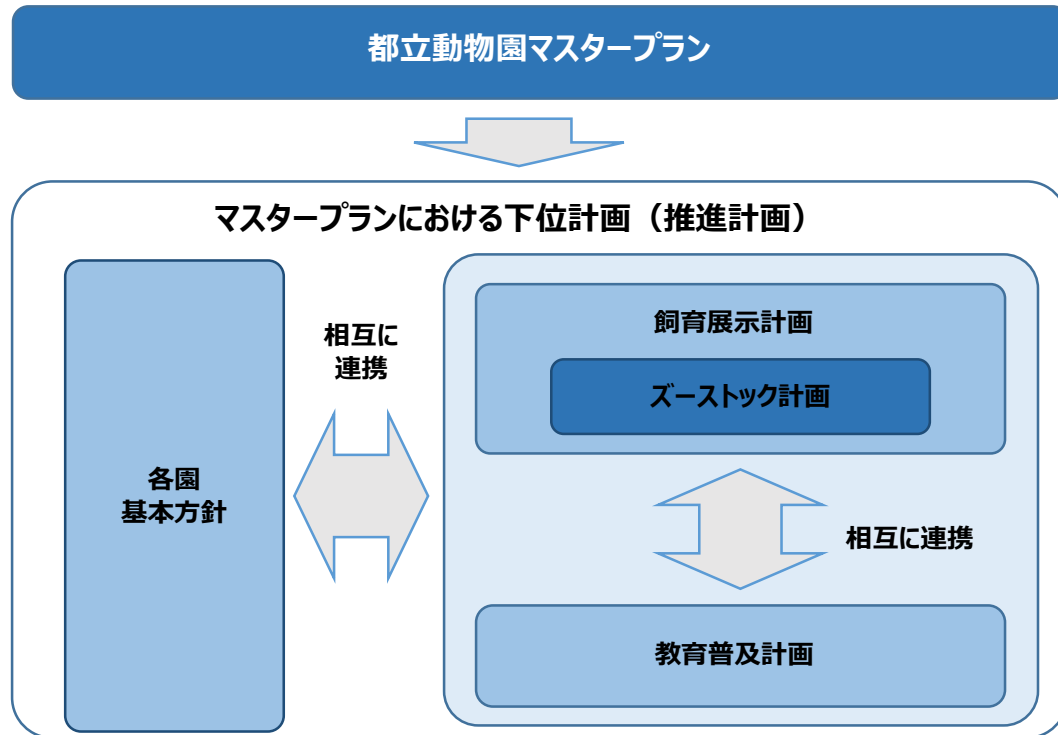
● 都立動物園マスタープランの実現と、地球環境の保全

◆ 各園が推進計画に沿った取組を着実に実施していくことで、都立動物園マスタープランの目指す姿を実現する

◆ 人と動物がともに生きていくことのできる地球環境を守り、未来に引き継ぐ

1-2. 推進計画について

【各計画の位置づけと概要】



【各園基本方針】

- ◆各園の今後の方向性について、どのような考え方とするかを規定した計画。第4章の「各園の目指す姿と取組の方向」に沿い、どのような園を作っていくのかについて、飼育・展示だけでなく、観覧環境も含めた施設面や、環境学習・企画・運営等の、ソフト機能も含めた考え方を示すもの

【飼育展示計画】

- ◆都立動物園が飼育する全ての種に対して、飼育する意義や環境学習での効果など検討し、今後、どのような種を飼育展示し、維持していくのかを規定する計画

【ズーストック計画】 平成30年10月策定

- ◆124種を対象に、希少種の保全や、環境学習の推進、生息域内保全への貢献を図る計画

【教育普及計画】

- ◆各園の特性などを踏まえ、どのような環境学習や利用促進の取組を行うかについて策定する計画。飼育展示計画やズーストック計画における環境学習関連項目も踏まえ、中長期的な視点から検討

2-1. 恩賜上野動物園 推進計画

【各園基本方針】

【園の取組の方向】

- ▶ 持続可能な動物園としていくため、様々な課題への臨機応変な対応
- ▶ One Health（ワンヘルス）の考え方を踏まえ、動物園としての果たすべき役割を担う
- ▶ 生物多様性や、希少種保全の重要性について知ることができるICT技術も活用した環境学習
- ▶ 私たちの地球を守り、子どもたちに残していくため、SDGsの実現に向けた取組の推進
- ▶ 日本を代表する総合的な動物園としての役割を発揮

「守る（種の保存）」
「極める（調査・研究）」の取組

【飼育展示計画】

【園の飼育展示コンセプト】

- ▶ 野生生物保全や環境学習などの機能強化
- ▶ 生息環境に近い飼育環境によるアニマルウェルフェアの向上
- ▶ 子どもから大人まで、楽しみながら学べる「生きた博物館」を目指す
- ▶ 最先端技術や、国内外ネットワーク強化による機能向上

【主なエリアごとの計画】

【日本エリア】

主な施設：日本の鳥 I

コンセプト

- ▶ 多様性に富んだ日本産鳥類の飼育展示と、生息域外・域内保全への貢献
- ▶ 多様な種を飼育し、比較展示することで、それらの生態や形態などを観察できる場を提供

飼育動物種

優先種：ライチョウ、ルリカケス

維持種：タンチョウ、カラスバトなど

検討種：オガサワラカワラヒワ、カシラダカ

断念種：アカマシコ、ヒバリ

重点的取組

- ▶ ライチョウなどの繁殖推進と生息域外保全
- ▶ オガサワラカワラヒワ近縁種による飼育技術確立など

【山岳エリア】

主な施設：ジャイアントパンダ舎

コンセプト

- ▶ 緑の景観を背景とした、パンダの生息環境を想起させる展示
- ▶ 域外保全の取組や、中国に生息する動物の展示などを通じ保全について知るきっかけを提供

飼育動物種

優先種：ジャイアントパンダ

維持種：レッサーパンダ、ベニジュケイなど

検討種：なし

断念種：なし

重点的取組

- ▶ 保護研究協力プロジェクトに基づいた、繁殖や普及啓発の取組推進 など

「魅せる（レクリエーション）」
「伝える（教育・環境教育）」の取組

【教育普及計画】

【園の教育普及コンセプト】

- ▶ 動物と動物園の情報を伝え、野生動物保全への一歩を踏み出せるような取組の推進
- ▶ アニマルウェルフェアに配慮した、動物がいきいきと暮らす、魅力ある動物園づくり
- ▶ 「学び」につながる、より適切かつ効果的な体験型プログラムの実施
- ▶ 近隣施設等との連携や、効果的な情報発信による、動物園と地域の魅力向上
- ▶ 快適で安全な観覧環境と、ホスピタリティの提供

【主な教育普及テーマごとの計画】

【動物と間近に接する体験の充実】

取組計画

- ▶ 子どもたちが、動物や自然について学ぶ最初の一歩となるような、環境学習プログラムの展開
- ▶ 動物側の視点に立ち、アニマルウェルフェアや感染症対策に配慮したプログラムの検討・実施

主な実施項目

- ▶ 「子ども動物園すてっぷ」での各種環境学習プログラムの実施
 - ・モルモットとなかよし
 - ・もっと知りたいモルモット
 - ・家畜ってすごい など

【環境学習プログラムの充実とズーストック種を活用した情報発信の強化】

取組計画

- ▶ ズーストック種を中心とした企画を展開し、野生動物の保全に貢献
- ▶ 飼育動物と、フィールドをつなげるプログラムを実施し、野生動物の生態への理解を促進

主な実施項目

- ▶ 生物多様性の日、世界ゴリラの日等での情報発信
- ▶ セミとコウモリの観察会
- ▶ 文化財ウィークでの情報発信 など

2-2. 多摩動物公園 推進計画

【各園基本方針】

【園の取組の方向】

- ▶ 多摩丘陵の豊かな自然とスケールメリットを生かし、生き物の多様性を伝えるとともに、動物や自然を体感できる体験型フィールドを展開
- ▶ 幅広い飼育種がいる強みを活かし、動物の関わり合いや生物多様性などの情報を発信
- ▶ 動物の生態と福祉に配慮した飼育展示方法や施設で、ダイナミックな展示と繁殖の推進を実現
- ▶ 国内における希少動物の繁殖基地及び保全活動の推進拠点としての役割を担う

「守る（種の保存）」
「極める（調査・研究）」の取組

【飼育展示計画】

【園の飼育展示コンセプト】

- ▶ 動物本来の姿が観察できる飼育展示をするとともに、生物の進化や多様性を伝える
- ▶ 多種多様な動物の展示を通じ、自然環境への興味喚起と、環境学習の機会を提供
- ▶ 生息域内保全と連携し、保全の重要性の普及と、飼育繁殖技術・知見の活用により生息域外保全を推進
- ▶ 生物工学技術の活用と、その技術の蓄積・継承により、希少種の繁殖を推進

【主なエリアごとの計画】

【アジア園エリア アジア園Ⅰ】

主な施設：オランウータン舎・アジアの山岳

コンセプト

- ▶ 多様な生息環境を再現し、行動、生態など動物本来の姿を観察できる場を提供
- ▶ 幅広い種の展示を通じ、自然環境と生物のつながりへの興味を喚起し、保全の重要性を普及

飼育動物種

優先種：ボルネオオランウータン、ユキヒョウなど
維持種：ムフロン、ヒマラヤタールなど
検討種：トナカイ、シフゾウなど
断念種：なし

重点的取組

- ▶ ユキヒョウなどの健全な個体群の形成
- ▶ ボルネオオランウータンの生息地保全活動に関する情報発信

【正門・管理エリア 保全繁殖施設群】

主な施設：トキ舎、新コウノトリ舎

コンセプト

- ▶ 希少動物を飼育・繁殖し、生息域外保全に取り組む、その技術を活用した生息域内保全への協力を行うとともに、保全の大切さを伝える

飼育動物種

優先種：トキ、アカガシラカラスバトなど
維持種：ニホンコウノトリ、タンチョウなど
検討種：ウミネコ、マガンなど
断念種：ハダダトキ、カオグロトキなど

重点的取組

- ▶ トキなどの遺伝的多様性に配慮した繁殖と、人工繁殖技術の開発・向上
- ▶ アカガシラカラスバトなどの、生息域内保全事業への技術協力 など

「魅せる（レクリエーション）」
「伝える（教育・環境教育）」の取組

【教育普及計画】

【園の教育普及コンセプト】

- ▶ 動物の情報のみならず、生息地の環境や文化など多面的な学びを、様々なプログラムで提供
- ▶ 幅広い展示種を生かし、動物の関係性や生物多様性の重要性を、様々な手法で発信
- ▶ 園内フィールドプログラムなど、豊かな自然環境を生かした教育普及活動を推進
- ▶ 野生生物保全センターを中心に、生物多様性や保全の重要性を伝える

【主な教育普及テーマごとの計画】

【集客力のある教育普及プログラムの強化】

取組計画

- ▶ オンライン情報発信ツールを積極的に取り入れるとともに、来園者のニーズを考慮した魅力的かつ教育的なプログラムを実施

主な実施項目

- ▶ サマーナイト@Tama Zoo
- ▶ 動物クイズラリー
- ▶ 都立動物園アフリカフェア
- ▶ 開園記念イベント など

【長期的で深い学び、また専門性の高い学びの充実】

取組計画

- ▶ 子どもを対象にしたプログラムや、より専門性の高い講演会など、多様な年齢層や、それぞれの興味関心に合わせた教育普及活動を強化

主な実施項目

- ▶ ムササビ観察会
- ▶ 初心者野鳥観察会
- ▶ ホタル観察会
- ▶ サイエンスカフェ など

2-3. 葛西臨海水族園 推進計画

【各園基本方針】

【園の取組の方向】

- ▶ 多様な来園者に喜ばれる、利用者満足度の高い園を目指す
- ▶ 日本をリードする水族園として、飼育や繁殖技術の発展に寄与するとともに、希少な野生生物の保全に努める
- ▶ 東京湾を臨む立地を活かし、海の恵みや環境を都民に伝えるプログラムを推進
- ▶ 海外水族館や国内外研究施設と連携した調査・研修、技術交流、収集計画を推進

「守る（種の保存）」
「極める（調査・研究）」の取組

「魅せる（レクリエーション）」
「伝える（教育・環境教育）」の取組

【飼育展示計画】

【園の飼育展示コンセプト】

- ▶ 誰もが楽しみながら、水生物との関係を科学的に理解することを目指す
- ▶ 飼育や繁殖が困難な種について、技術の開発・向上にチャレンジ
- ▶ アニマルウェルフェアに配慮した展示を行い、エンリッチメントに取り組む
- ▶ 国内外の関係機関等と連携し、水生生物の繁殖及び保全活動の取り組みを強化
- ▶ 大学などとの共同研究を一層推進し、得られた知見を発信

【園の教育普及コンセプト】

- ▶ 体験的かつ能動的な学びにより、海や淡水環境への科学的理解を深める
- ▶ 個々のターゲットに合わせた、楽しく深い学びを提供すると共に、誰もが学べる場を提供
- ▶ 地元や周辺施設と連携しながら、海の恵みや環境を、都民に伝えるプログラムを推進
- ▶ 生物多様性の重要性を積極的に伝えることで、未来を考え、行動する人を育てることを目指す

【教育普及計画】

【主なエリアごとの計画】

【大洋の航海者エリア】

主な水槽：大洋の航海者 マグロ

コンセプト

- ▶ 大洋での生活に適応した生物の多様な姿を伝える
- ▶ クロマグロの群れや、外洋性サメ類などを展示し、その形態や、力強く生き生きと泳ぐ姿を見せる

飼育動物種

- 優先種：クロマグロ、アカシユモクザメなど
- 維持種：ウシバナビエイ、シノメサカタザメなど
- 検討種：外洋性サメ類、バショウカジキなど
- 断念種：ウミガメ類、マンボウなど

重点的取組

- ▶ 適正な年級群のクロマグロ導入による群れの形成・維持
- ▶ 外洋性魚類の継続飼育へのチャレンジ など

【東京の海エリア 東京の海】

主な水槽：小笠原の海、東京湾泥干潟

コンセプト

- ▶ 東京湾のさまざまな環境を再現した展示を通し、アマモ場や干潟などの重要性を普及
- ▶ 伊豆諸島周辺海域や、小笠原諸島にすむ生物を展示し、それぞれの海域の特徴を紹介

飼育動物種

- 優先種：ユウゼン、トビハゼ、アマモなど
- 維持種：キイロハギ、ツノダシ、アカハチハゼなど
- 検討種：アオヤガラ、カガミチョウチョウウオなど
- 断念種：ノコギリダイ、オニカサゴなど

重点的取組

- ▶ LED照明などを使ったアマモの安定展示
- ▶ 東京湾のトビハゼ調査と展示
- ▶ 小笠原諸島の自然についての普及啓発 など

【主な教育普及テーマごとの計画】

【長期的で深い学び、また専門性の高い学びの充実】

取組計画

- ▶ 多種多様な年齢別プログラムを企画・実施しながら、より効果的な学習プログラムのために改善を重ねる

主な実施項目

- ▶ 保全プログラム「水辺の生き物保全講演会」
- ▶ いきものはじめ
- ▶ 海の学び舎
- ▶ トビハゼ観察会 など

【誰も取り残さない教育普及活動の推進】

取組計画

- ▶ 特別支援学校や盲学校向けのプログラムを強化するとともに、移動水族館活動を継続し、誰もが利用できる水族園を目指す。
- ▶ 国外からの来園者を見据え、職員の語学研修や、情報サイン等の多言語化を推進

主な実施項目

- ▶ 移動水族館活動
- ▶ 地域の特別支援学校・盲学校等との連携
- ▶ ドリームナイト・アット・ザ・アクアリウム
- ▶ 解説サインの多言語化 など

2-4. 井の頭自然文化園 推進計画

【各園基本方針】

【園の取組の方向】

- ▶ 「入門動物園」として、子どもたちが訪れやすい、気軽な雰囲気動物園
- ▶ 「多様なふれあい体験」により、動物と人との関係性を豊かにする
- ▶ 井の頭池や玉川上水に隣接した、武蔵野の自然を生かした取組を推進
- ▶ 日本産動物の飼育に積極的に取り組み、生息域内とも連携
- ▶ 彫刻園などの、園内の文化施設を最大限に生かし、多様な来園者層の期待に応える

「守る（種の保存）」
「極める（調査・研究）」の取組

「魅せる（レクリエーション）」
「伝える（教育・環境教育）」の取組

【飼育展示計画】

【園の飼育展示コンセプト】

- ▶ 人と動物との関わりや、生命の尊さを知るきっかけを創出
- ▶ 様々な環境に暮らす動物と、人とのつながりを感じさせる展示
- ▶ 身近な動物に対する理解を深められる展示と、生息域内と連携した保全

【主なエリアごとの計画】

【身近ないきもの体験エリア】

主な施設：ヤマネコ舎・家畜舎

コンセプト

- ▶ 日本産動物の保全と、ふれあいなどの環境学習プログラムの展開
- ▶ 生命の尊さや、人と動物との関わりを知ることができる場を創出

飼育動物種

優先種：ツシマヤマネコ、テンジクネズミなど
維持種：ニホンカモシカ、タヌキ、フェネックなど
検討種：ムササビ、ノウサギなど
断念種：なし

重点的取組

- ▶ ツシマヤマネコの人工繁殖推進と技術継承
- ▶ テンジクネズミのアニマルウェルフェアに配慮した飼育環境の確保 など

【井の頭池と水辺のいきもの体感エリア】

主な施設：水生物館

コンセプト

- ▶ 井の頭池の環境をイメージさせる展示を創るとともに、水辺と動物の関係性を伝える
- ▶ 人と動物、自然環境とのつながりを感じ、考える場を提供

飼育動物種

優先種：アカハライモリ、ミナミメダカなど
維持種：ゲンゴロウ、イノカシラフラスコモなど
検討種：なし
断念種：なし

重点的取組

- ▶ 日本産淡水魚・両生爬虫類などの繁殖推進と個体群維持
- ▶ 井の頭池の水草類の保全と、健全な水辺環境についての情報発信

【園の教育普及コンセプト】

- ▶ 「入門動物園」として、誰もが楽しく学べる場を提供し、動物と人との関係を豊かにする
- ▶ 井の頭池や武蔵野の森などの自然を活用し、身近な動物への理解を深める
- ▶ 彫刻館など文化施設の利活用を進め、子どもから大人まで楽しみながら学べる展示や教育プログラムを提供
- ▶ アニマルウェルフェアや感染症対策に配慮し、新たな教育活動スタイルを構築

【主な教育普及テーマごとの計画】

【動物と間近に接する体験の充実】

取組計画

- ▶ 動物を「近い存在」に感じ、大切に思う「心のふれあい」を重視した教育普及プログラムを強化
- ▶ アニマルウェルフェアへ配慮し、来園者の学びを科学的に検証する教育普及プログラムの実施

主な実施項目

- ▶ モルモットふれあいコーナーでの活動（餌やりプログラム）
- ▶ ダックさんにお弁当プログラム
- ▶ 「いきもの広場」での活動（野生の生き物観察）

【環境学習プログラムの充実とズーストック種を活用した情報発信の強化】

取組計画

- ▶ 身近な希少野生動物の現状や、保全の取り組みについて伝える教育普及プログラムを充実
- ▶ ズーストック種を活用した情報発信の強化と、武蔵野の自然を活かしたフィールドプログラムの充実

主な実施項目

- ▶ 身近な水辺の生き物保全講演会
- ▶ ヤマネコ祭、ヤマネコ講演会
- ▶ ツシマヤマネコ、小笠原産マイマイなどについてのガイド など

2-5. 大島公園動物園 推進計画

【各園基本方針】

【園の取組の方向】

- ▶ 島民から愛され、来島者を惹きつける「しまの動物園」としての魅力度の向上
- ▶ 積極的に環境学習に取り組み、島の貴重な生態系や自然環境保全への理解を促進
- ▶ 東京の島々の希少種の域外保全に取り組むとともに、それらの展示や情報発信を充実
- ▶ 日本や世界の「島」にすむ生きものと、自然に関する情報発信やPRを強化

「守る（種の保存）」
「極める（調査・研究）」の取組

「魅せる（レクリエーション）」
「伝える（教育・環境教育）」の取組

【飼育展示計画】

【園の飼育展示コンセプト】

- ▶ 多様な動物の世界と、島の自然の魅力を楽しみながら学べる展示を創出
- ▶ 「島」をキーワードとして、日本や世界の「島」にすむ生きものを飼育展示
- ▶ 島の自然を活かした展示や、環境エンリッチメントの推進により、動物の行動やくらしを観察できる展示を推進
- ▶ 伊豆諸島固有種や、東京にすむ希少種の域外保全を見据えた飼育

【主なエリアごとの計画】

【日本の鳥エリア】
主な施設：カラスバト舎
コンセプト

- ▶ 日本産鳥類をはじめ、カラスバトなど、東京の島にすむ動物の飼育繁殖
- ▶ 日本の動物の域外保全や、調査研究に貢献

飼育動物種

優先種：カラスバト
維持種：オリオオコウモリ、チョウゲンボウなど
検討種：アオバト、ミゾゴイなど
断念種：なし

重点的取組

- ▶ オガサワラオオコウモリの保全活動を見据えた、オリオオコウモリの飼育推進
- ▶ カラスバトなどズーストック種の遺伝子工学技術を活用した繁殖推進

【サル島エリア】
主な施設：サル島
コンセプト

- ▶ ワオキツネザルとバーバリーシープを、自然の溶岩を利用した日本最大級の規模の施設で展示
- ▶ ワオキツネザルの生態を間近に観察する機会を提供

飼育動物種

優先種：ワオキツネザル、バーバリーシープ
維持種：なし
検討種：なし
断念種：なし

重点的取組

- ▶ ワオキツネザルの健全な血統管理と個体群維持
- ▶ 植栽管理や遊具の設置などによる、アニマルウェルフェアを実現する環境エンリッチメントの推進

【園の教育普及コンセプト】

- ▶ 島の子どもたちが、自然環境保全への大切さに対する理解を深めるための取組を実施
- ▶ 展示や解説を通して、来園者の希少動物の保護や、環境保全への興味・関心を醸成
- ▶ 「島」をキーワードとした展示や情報発信の強化と、来島者への観やすく、魅力ある施設についてのPR促進

【主な教育普及テーマごとの計画】

【動物と間近に接する体験の充実】

取組計画

- ▶ エサを食べる姿など、ダイナミックな動物の本来の生態を間近で観察できる取組の実施
- ▶ 実際に大きさや手触りを実感できる教育活動を実施

主な実施項目

- ▶ エサの時間に合わせた生態解説
- ▶ ヘビの抜け殻や羽、ゾウガメの甲羅など実物を活用した解説
- ▶ ふれあいプログラムの実施

【環境学習プログラムの充実とズーストック種を活用した情報発信の強化】

取組計画

- ▶ 世界の島の成り立ちの相違・島しょ化、地理的隔離による動物の生態的特徴を解説に取入れ
- ▶ 世界の島の動物種の飼育を継続するとともに、それら動物の情報を発信

主な実施項目

- ▶ 公園内での大島の野生動物の展示
- ▶ インフォメーションセンターでの特別展示（世界カメの日、世界キツネザルの日等）
- ▶ 効果的な発信方法の検討